

伊米ヶ崎小学校 学校だより

星と稲

発行日 令和3年11月19日

発行者 校長 名塚高明

NO7

批判的思考 (クリティカルシンキング) を働かせて

秋篠宮家の真子様のご結婚のニュースがあったのは、先月26日のことでした。様々な事情があり、国民は祝意を素直に表すことはできませんでした。その中で私が衝撃を受けたのは、結婚したお二人への批判、誹謗中傷でした。記事にあおられるかのように書かれたコメントの数々、そして、そのコメントに多数の「いいね」が付いていました。思想、表現の自由は尊重されなければならないと思いますが、敬意のないバッシングに匿名発信のSNSの闇の深さを感じました。こういった悪意のシャワーは、子どもたちをはじめ、皇室や人権、犯罪について理解の足りない者にも降り注がれます。子どもたちはどう受け止めたのでしょうか。様々な情報を冷静に受け止め、自分で判断し、考えをもって行動する力を養うには、メディアリテラシーを含めた教育が必要であることを改めて思います。

これから進むグローバル化、情報化、AI化の進む変化の激しい困難な時代を生き抜くためには、自ら考え、自らの判断で最適解を導かなければなりません。ですので、知識、技能に加えて『批判的思考』が必要とされています。『批判的思考』とは、物事を批判的に見るという意味ではありません。問題に対して、確かな証拠に基づいて、客観的・多面的に考え、それを自ら吟味しながら、物事の答えを探る思考法のことです。先日行われたあおば学習発表会では、子どもたちがこれまで学習してきたことを発表しました。子どもたちは、教師や講師から話を聞いただけでなく、体験したり、自分で資料を探したりして問題解決を図ってきました。また、聞き手を想定することで、導いた答えの確かさを検討したり、相手に伝わるように発表を工夫したりしました。この学習過程が『批判的思考』の姿です。まだ十分でない発表も多かったと思いますが、こういった学習を重ねていくことが大切であると考えます。また、この『批判的思考』が生かされるのは学習面だけではなく、前述のように現代社会は、多様な価値観に立つ人がそれぞれの立場で異なる情報を発信しています。その膨大な情報から本質を見出す際に、客観的、多面的にアプローチし、自分の考えを吟味することが必要となります。逆に、その過程を経ずにわずかなニュースソースを鵜呑みにしてしまうことは危険だと言えるでしょう。

さて、来月から人権強調週間が始まります。人権侵害の最たるものはいじめですが、昨今いじめによる悲惨な事件を再び報道で見かけることが多くなりました。報道から加害者に追従する周辺者と行為を眺める第三者の存在が浮かんできます。(※ 燕の事件については詳しい情報を得ていませんので、分かりません。) その度に発生を許してしまった学校教育の無力さを改めて感じます。いじめは絶対に行ってはいけない行為であり、許せないことです。それを揺るがない核として、被害者の心に共感したり、いじめがもたらす様々な悲惨な事態を想像したりしながら、葛藤し吟味しながら自分はどう行動すればよいのか、それぞれの立場で『批判的思考』を働かせることが大切なのだと考えます。道徳や生活指導、情報教育とともに、日々の授業で子どもたちに深く考えさせる授業を行わなければ、と考えています。

学習の成果を発表！～11/6 あおば学習発表会～

巻頭言にも載せましたが「あおば学習発表会」が行われました。低学年も調べ学習の発表を取り入れ、タブレットを利用したりして工夫して発表を行いました。参観された保護者の皆様からは、子どもたちの発表に対し、質問、感想もたくさんいただきました。来年度からコミュニティスクールになるのに合わせて学校評議員、伊米ヶ崎共和国の皆さんからも子どもたちの様子を見ていただきました。来年は、地域の皆様からもっと見ていただきたいと思ひますし、地域芸能祭と合わせて行えることを願っています。



焼き芋いただきました ～11/10 3学年デイサービス訪問～

3年生が伊米ヶ崎デイサービス様に招かれ、焼き芋をいただきました。このサツマイモはデイサービスの皆さんと植え、収穫したものです。お礼に3年生はリコーダーや合唱、ダンスを披露しました。最後に入所されている皆さんと「ふるさと」を一緒に歌いました。ホカホカのおイモとともにデイサービスの皆さんから「感動しました。」「子どもはいいねえ～」と感想&感謝の言葉をいただき、子どもたちは満足顔でした。



来春に向けて ～10/29 小小、小中連携事業～

6年生が小出地区の小小、小中連携事業の一環として、中1ギャップ解消の一助にするため、小出小学校の子どもたちとの交流活動、小出中学校での体験入学(授業見学、部活動体験)に行ってきました。子どもたちは、ちょっぴり緊張気味でしたが、貴重な体験をさせてもらいました。伊米ヶ崎小の先輩中学生の元気な活動ぶりも見ることができ、子どもたちは来春に向けて思いを馳せていました。



各種コンクールでの入賞者の紹介

新潟県模型展

発明協会会長奨励賞 3年 佐藤愛里花 「木の羽のトキ」

新潟県競書大会 (新潟県書道教育研究会主催)

特選 硬筆 1年 小田島 快人

準特選 毛筆 3年 八海 みなみ 5年 坂大 愛莉